

建通新聞 二〇一五年十一月十二日 四画

建設トップランナー倶楽部

「担い手確保・育成」テーマに

国交省幹部と意見交換

建設トップランナー倶楽部（代表幹事・米田雅子慶應義塾大学特任教授）の幹事会は11日、国土交通省内で同省幹部との意見交換会を開いた。写真、幹事会メンバーからは、地域建設産業にとつての担い手確保・育成に関わる意見や提案が数多く上がった。

国交省側は、「適正利潤を確保できる、次世代に引き継げるマーケットづくりへのチャレンジが重要だ」（海堀安善建設流通政策審議官）、「（人材不足）をチャンスと捉え、生産性向上に今こそ取り組むべき」（池田豊人技術審議官）との考えを示した。

担い手の確保について「将来をい現状が報告された。それは、「数少ない地元の工 考えると、新卒採用に不 業高校卒業生の取り合い 安を感じる」など、厳し どの際、学生の保護者を

いかに巻き込むかが重 要。建設業の現場管理や 安全管理への認識を改め てもいい」とが「（岐阜県・杉山建設、杉山文康代表取締役）、『林建協働』に取り組 んできたことから、林業 から建設業からも人材 を確保できるようになっ た」（岐阜県・長瀬土建、長瀬雅彦代表取締役）と



の声も上がった。 従業員の処遇改善に向 けては、加藤建設（愛知 県）の加藤徹取締役社長 が同社の取り組みを紹介。1週間の連続休暇取

得を全社員に励行してい るもので、「社内の空気が 変わり、社員の家族にも 非常に喜ばれた。全国 の建設業も取り組めば、 若い人材が集まるので は」と提案し た。

これを受け た木村実建設 市場整備課長 は、「貴重な 話。良い事例 として水平展 開できれば」と 応じた。 意見交換会 では「その他、 国交省側が 「国土交通省 平成27年度施

策について」と「公共工 事、品質確保をめぐる最 近の話題」について説明 した。